

# 行政視察報告書

委員会名	建設産業委員会
派遣委員	委員長 内藤 康弘 副委員長 武生 博明 委員 平川 幸司 委員 芝田 英範 委員 奥田富美子 委員 牧 宣雄
日程	令和5年10月26日(木) 13:00~14:30
視察先	三重県いなべ市
調査項目	グリーンクリエイティブいなべ事業について

## 1. 調査目的

いなべ市が掲げる「グリーンクリエイティブいなべ」とは、いなべ市の豊かな地域資源をカジュアルなSDGsの発想で、都市住民にオシャレ・カワイイと感じてもらえるよう磨き上げをすることである。このコンセプトに、まちづくり団体と連携し、マルシェやイベント等を通じて地域の交流、回遊へとつなげるほか、デザイン性に富み、クリエイティブな地域の商品開発、販売開拓、シティプロモーション、広報媒体制作、まちづくりのキーパーソンを育成する会議や研修といった取組を行っている。

上記のような取組を白杵市においても実施できるのかということを目的とし調査・研究を行いました。

## 2. 調査内容

### (1) 視察先の概要

いなべ市は、人口は44,845人(令和5年6月1日時点)、総面積は約220平方キロメートル。名古屋から車で約50分の距離にあり、自動車関連企業などが進出し活力あるまちとして発展を続けています。令和8年度末までの東海環状自動車道全線開通が公表されており、更なる発展が期待されます。

いなべ市では、高水準で市として誇れる行政サービスを「いなべブランド」と称しています。この「いなべブランド」には2つの視点を取り入れており、一つは「SDGs」、そしてもう一つが「グリーンクリエイティブいなべ(以下「GCI」という。)」です。

「GCI」とは、いなべ市の豊かな自然や農産物等の地域資源をグリーンと定義し、これらを都会的なものに磨き上げ、人々を魅了する創造活動のことをいいます。このGCIの理念を基に業務改善を行い、いなべブランドを創造していくことで、いなべ市の特色を活かしたまちづくりを行っています。

### (2) 調査結果

GCIの理念に基づいたまちづくりの拠点として、令和元年5月に「にぎわいの森」と呼ばれる商業施設を市役所庁舎の敷地内に整備しました。このにぎわいの森は誘客するための商業施設ではなく、農業振興や生業・就業促進、商業・観光振興及び市民共同の促進といったまちづくり・ひとづくりの拠点として位置付けられています。出店している店舗では

地元産品を活かした独自の商品開発や提供を行い、地元産品に付加価値を付けることで、販路拡大等による地域経済の循環促進を図っています。

にぎわいの森は、令和元年の整備以降、新型コロナウイルス感染症の影響もある中にも関わらず年間約35万人の来場者があり、交流人口が増える大きな要因になっているとのこと。

また、この事業は、地域雇用の創出にも繋がっており、移住・生業のモデルケースとして紹介することで、いなべ市でのライフスタイルの紹介や魅力発信から移住・生業に繋がっているとのこと。

本事業については、若手職員が意見を伝えやすく、また、反映されやすいことから、職員のモチベーションやアンテナが高くなっており、そういった意味でも良い効果が出ているようです。

### 3. 委員会の所感

本市も今後、白杵庁舎の移転や新設も考えていかなければならない課題であると思います。また、旧野津高校の再活用については早急に検討を進めているような状況です。これらの検討事項と併せて、現在本市が進めている、若者の新規就農への支援、有機農業の取組、6次産業化や地域ブランド開発及び移住定住の取組などをより一層進めていくために、いなべ市のような取組は参考にすべき内容であったと感じています。

### 4. 視察状況

